



シリーズ
タンチョウ
Vol. 346

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

吉田 裕志
〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ 検索



マナヅルとカナダヅルが来村中です

地域の皆さんの地道な保護活動のおかげで、鶴居村でタンチョウが見られるのは当たり前になりました。そして今シーズンは、タンチョウだけではなく渡りの途中で迷子になったマナヅルとカナダヅルが、それぞれ1羽ずつ越冬しています。ここは「鶴が居るから鶴居村」ですが、3種類のヅルが同時に越冬するのは初めてとのことで、タンチョウだけではなくマナヅルやカナダヅルも見ようと、続々とバードウォッチャーが訪れています。皆さんは、もうご覧になりましたか？

マナヅルは鹿児島県出水市が越冬地なので、日本人にとっては馴染みのヅルだと思います。とは言っても生粋の北海道民の私にとっては、鶴と言えばタンチョウです。タンチョウびいきの私が失礼承知で言わせてもらえば、灰色のマナヅルは汚い鶴で純白のタンチョウにはかわないと思っていました。ところが初めて目にした本物のマナヅルは、ボディーの濃いグレーが繊細なグラデーションで淡くなり、羽先は真っ白。まるで水墨画のような美しさです。白黒はつきり分かれたタンチョウは、小学生の描く絵のようにシンプルだけでも味わい深くて見飽きることはありません。そんな対照的な2種類の鶴を同時に観察できるのは、今シーズン限りかもしれません。マナヅルは12月中旬からほぼ毎日サンクチュアリに飛来しています。ぜひ見に来てください。



マナヅル（左）12月23日サンクチュアリ



カナダヅル（左）12月23日鶴見台

カナダヅルは、鹿児島県出水市では稀な冬鳥として越冬する年もあるようですが、北海道で見られることは珍しく、私はこの冬初めて見ました。とても小さなヅルなので、タンチョウと並ぶと高さ（身長）が、半分くらいに見えます。マナヅルが美しい迷鳥なら、小さなカナダヅルは可愛らしい迷子ちゃん（でも大人）といった感じでしょうか。見ている観光客が「タンチョウの子ども？」なんて言っているのも耳にします。羽の1枚1枚がうろこ状に見えるのが、とても特徴的です。カナダヅルは鶴見台がお気に入りのようで、今のところ、ほぼ毎日鶴見台に飛来しています。

マナヅルとカナダヅルは、それぞれにサンクチュアリと鶴見台に分かれて過ごしているので、残念ながら3種類を同時に観察することは出来ません。でも、2か所の給餌場をはしごすれば、野生の鶴を1日に3種類見ることができますよ。ぜひ鶴三昧な冬の1日を過ごしてみてください。